

物流未来画

モノの流れでミライを創る

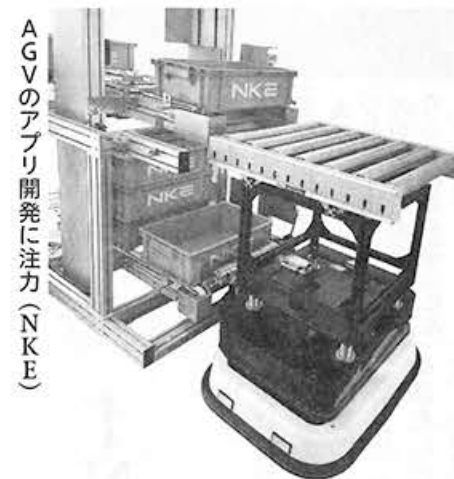
企画・制作：

日刊工業新聞社 西日本支社クロスメディア部
名古屋支社 業務部

物流の進化が 社会を変える

モノの流れの中心となる物流倉庫は進化し続ける。複数の企業が入居するマルチテナント型や製造工程も一体化した倉庫の登場は、スピードが求められる時代に則した最適な形への変化だ。常

に効率化が求められる中、より生産性向上に役立つ搬送システムや、自由なレイアウトを実現する設備へのニーズも高まっている。手がける関連機器メーカーも技術力を発揮する。



AGVのアプリ開発に注力(NKE)

次世代物流システム
・サービスの需要が伸びている。富士経済（東京都中央区）が公表した市場調査は、2026年に20年比60%増の9627億円に成長すると予測する。デジタル変革（DX）の実現に向け、ロボットやIoT（モノのインターネット）、人工知能（AI）を活用したシステム需要が今後ますます高まっていくと

みられる。富士経済のリポートは日本国内と海外の納入実績をまとめた。物流業界では、人口減少による人手不足が慢性化し、サービス品質の安定化が年々難しくなっている。人手不足対策が急務である中、現場の生産効率

化にロボットや、搬送機器、デジタル技術の活用などハード、ソフトの両面に対策が欠かせない。これに伴い、さまざまなメーカーやシステム会社が自動化に役立つ製品やソリューションの開発に力を注いでいる。

◆ ◆ ◆
搬送機器や自動化機器の設計・製造・販売を手がけるNKEは、無人搬送車（AGV）

のアプリケーショントームの開発に取り組んでいる。AGV単体では「搬送物の受け渡し」は難しい。同社は長年培ってきた自動化機器ノウハウを活用し、この課題を解決。AGVの付加価値を高めている。

◆ ◆ ◆
今後はさらにシステムを標準化し、あらゆるニーズに対応する開発を進める。

新たなニーズに応える製品・技術

